



共通KPIの公表について

当社は、2015年8月に金融界で最初に独自の行動規範である「フィデューシャリー宣言」(2021年6月にHC行動原則に改編)を策定公表し、その遵守状況を半期ごとに公表し、顧客本位の業務運営を徹底してまいりました。

[HC行動原則はこちら\(リンク\)](#)

2021年11月1日に公募投資信託「HCインカム～夢のたね」を設定しましたので、2018年に金融庁から公表された「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」(以下共通KPI)を踏まえ、実績を公表します。共通KPIの詳細は金融庁ホームページをご参照ください。

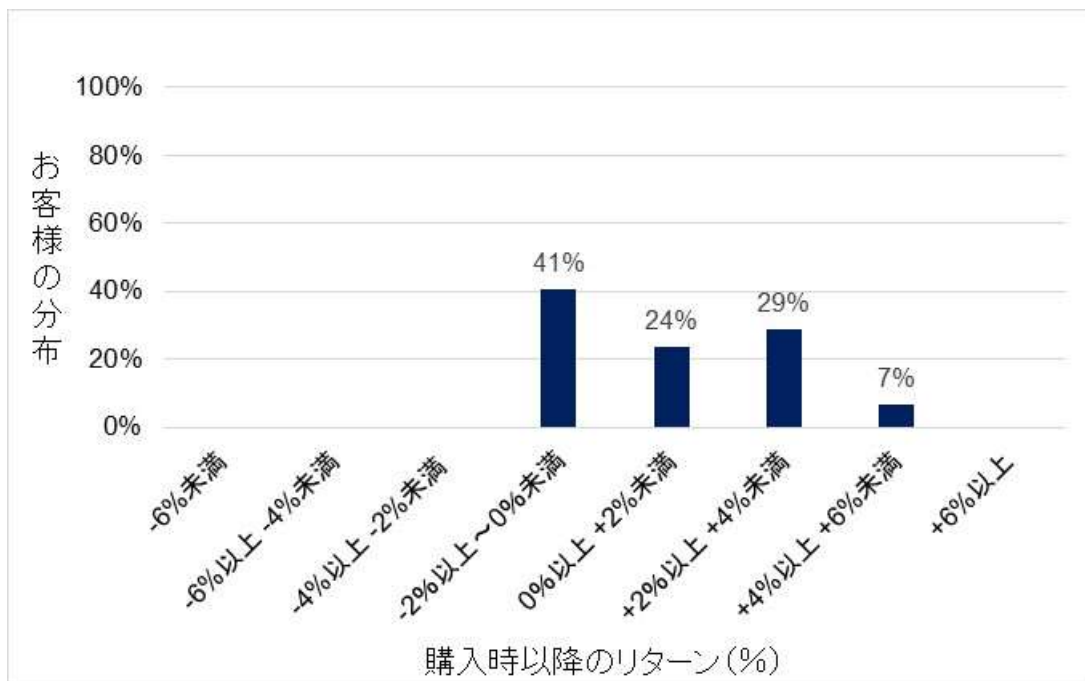
<https://www.fsa.go.jp/news/30/sonota/20180629-3/02.pdf>

設定後経過期間が4年半弱のため、報告できる内容に限りはありますが、ご参照頂ければ幸いです。

1) 投資信託の運用損益別顧客比率

基準日(2026年3月31日)に投資信託を保有しているお客様について、ご購入時以降のリターンを算出し、すべてのお客様を100%とした場合のリターン別の顧客分布を示したものです。

$$\text{購入時以降のリターン(}\%) = \frac{\text{基準日の評価金額} + \text{累計分配金額} - \text{購入金額(手数料込)}}{\text{基準日の評価金額}}$$



(注)金融庁の(公表イメージ)では10%刻みの棒グラフですが、当社の扱う投資信託は、以下に記載した通り、極力価格変動を抑えた運用に特徴があり、より詳細が分かるように2%の刻みで表示しております。

当社が販売する「HC インカム～夢のたね」は長期的にインカムを獲得することを目的とし債券やローンを組み入れています。しかしながら、2021年11月に運用を開始した直後から、欧米各国が利上げ局面に入ったこと、および、ヘッジコストが上昇した影響から基準価額は下落しました。その後



夢が膨らむ資産形成

HCインカム～夢のたね

追加型投信／内外／資産複合

、徐々に金利上昇は落ち着きつつあり、対応として、ヘッジ比率引き下げや、米ドルに比べヘッジコストが低いユーロの比率増加、また、金利の動向に左右されにくい変動金利型の債券組入れなどを行った効果もあり、時間の経過とともにインカムが積みあがり、時価は回復基調にあります。

結果として、顧客リターンは▲1.16%から5.39%の範囲に分布しています。引き続き、金利リスクを抑制しつつ、優良銘柄取得の機会をみて、規律ある投資行動をして、リターンの回復を目指します。

2) 投資信託の預り残高上位 20 銘柄のコスト・リターン

設定から5年以上経過した投資信託について、預り資産残高上位20銘柄について、コスト(販売手数料率の1/5と信託報酬率の合計値)とトータルリターン(過去5年間の基準価額の月次騰落率を年率換算)をプロットするものです。

当社は取扱い投資信託が「HCインカム～夢のたね」1銘柄であり、かつ設定後4年5か月しか経過していないため、該当ありません。

3) 投資信託の預り残高上位 20 銘柄のリスク・リターン

設定から5年以上経過した投資信託について、預り資産残高上位20銘柄について、リスク(過去5年間の基準価額の月次騰落率のバラツキ)とトータルリターン(同上)をプロットしたものです。

当社は取扱い投資信託が「HCインカム～夢のたね」1銘柄であり、かつ設定後4年5か月しか経過していないため、該当ありません。